

## 横浜市史編集室蔵 「森戸辰男」資料の現状

田崎 公司

### はじめに

横浜市史編集室には、その数にして大型段ボール箱 100箱<sup>(1)</sup>の森戸辰男の関係資料が所蔵されている。この資料は、1988（昭和63）年度発足の横浜市史編集事業に先立つ市内資料調査時に収集したものである。なお、この時期は横浜開港資料館の設立準備とも重なっていた。この「森戸辰男」資料は、生前、森戸自身が甥（実姉の息）である森本松也氏（横浜市中区在住、1980年死去）に一括して託し、森本氏の手から横浜市に寄贈されたものである。資料は森本氏宅のガレージにおかれ、何箱かは水をかぶっていた。よって、破損し塊と化した資料も少なくない原況であった。

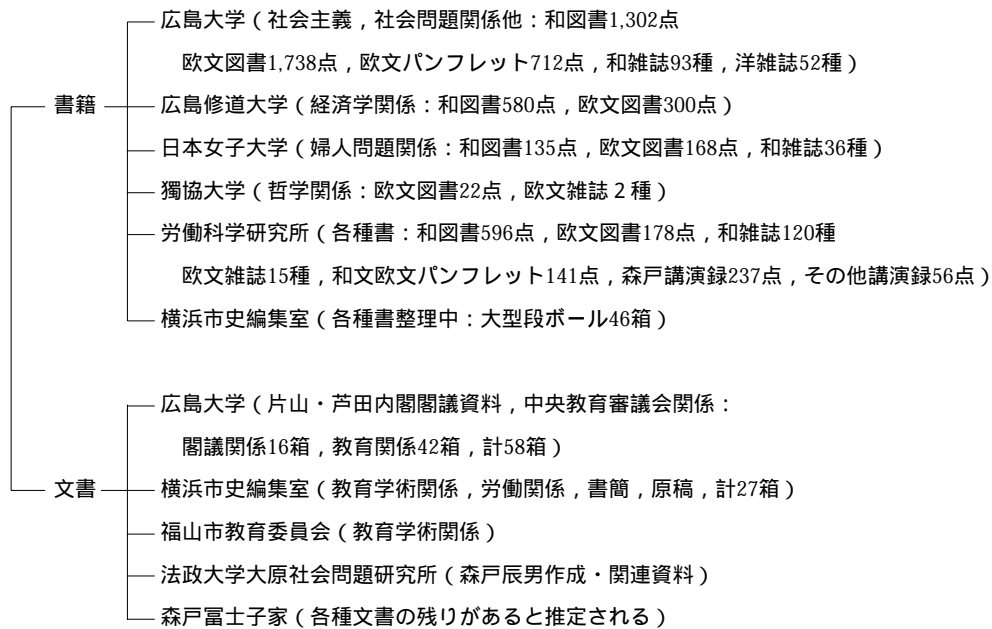
森戸辰男文書については、横浜市史編集室の他に 広島大学<sup>(2)</sup>、 広島修道大学、 日本女子大学<sup>(3)</sup>、 労働科学研究所<sup>(4)</sup>、 獨協大学、 福山市教育委員会<sup>(5)</sup>、 法政大学大原社会問題研究所

- (1) 拙稿「森戸辰男と『救国民主聯盟』」(『市史研究 よこはま』第10号、1997年7月)発表時には98箱であったがその後、旧保存場所である横浜開港記念館地下倉庫より書籍・雑誌が収納された2箱が追加された。
- (2) 広島大学附属図書館『森戸文庫目録』(1973年3月)、『森戸文庫目録(続)』(1979年3月)。さらに広島大学所蔵森戸辰男関係資料の一部をマイクロ化した国立教育研究所渡部宗助氏による『石川二郎旧蔵資料目録稿・森戸辰男関係文書目録稿』(1992年3月)がある。また 広島修道大学・獨協大学の所蔵図書の点数については、「解説」(『森戸文庫目録(続)』p.28)によった。
- (3) 日本女子大学図書館『森戸文庫目録(稿)』(1995年10月)。この文庫は森戸が1963年3月に日本育英会々長への内定(「日本育英会長、森戸氏に内定」『朝日新聞』1963年3月29日夕刊)を契機に同年4月から6月にかけて同図書館に寄贈した婦人問題関係文献によって構成されている。なお受入を担当した上杉美沙子氏による「森戸文庫のこと」(日本女子大学図書館『図書館だより』No.69、1987年6月)にこの間の事情が語られている。
- (4) 〔財〕労働科学研究所図書館『森戸文庫目録』(1990年1月)。なお森戸夫人によれば、「この労研の文庫には、故人が没年まで身近に残しておりました蔵書が多く含まれて」(森戸富士子〔目録謹呈の手紙〕1990年5月)といわれている。
- (5) 高橋彦博氏のご教示による。この資料は、福山市が森戸の出生地であることより、森戸没後に森戸夫人により寄贈されたものであるらしい。これにより、すべての資料が森戸家より離れたとは思われないので、日記に類するプライベートな資料が森戸富士子家に残されたと考えられる。

(6)に分散して存在している。

これらの資料は、本来一体であるべきものが様々な事情によって分散し、各機関に所蔵されるに至ったもので、目録作成作業を通じて再構成されることが必要である。試みに、森戸辰男文書の全体像を示したものが【図1】である。

【図1】森戸辰男文書の全体像（1998年2月現在）



出典：小池聖一「森戸辰男関係文書（「閣議配布資料」）の文書学的一考察」（森戸辰男文書研究会，1997年7月）に加筆・訂正を加えた。

これによって知り得ることは、法政大学大原社会問題研究所の所蔵資料を除いては、森戸自身の手により、広島大学に1963年8月・1971年10月・1976年1月・同年11月の四次に渡って寄贈がなされ、特に広島大学創立25年（1974年5月）編纂に係わり文部大臣時代を中心とした資料が寄贈され、森戸の人間関係を反映した形で、広島修道大学・日本女子大学・獨協大学への図書の寄贈がなされた。残された資料は、森戸の晩年に森戸夫人と甥の森本松也氏に二分され、森戸の死後に前者により労働科学研究所・福山市教育委員会へ、後者により横浜市から横浜市史編集室への資料の寄贈がなされたということである。その意味では、図書に関しては目的をもって寄贈された広島大学・広島修道大学・日本女子大学・獨協大学所蔵の図書よりも、趣味を中心とした森戸自身の講演録や抜刷を多く含む労働科学研究所と横浜市史編集室所蔵の図書の在り方に類似性がみられる。

(6) 二村一夫氏のご教示によれば、法政大学大原社会問題研究所の「森戸資料」は、研究所員としての森戸が作成、または係わった大原社会問題研究所内部資料であり、厳密な意味での森戸辰男文書ではない。しかしながら、書簡及び大阪労働学校時代の写真等、注目すべきものも残されている。

## 1. 森戸辰男の経歴

森戸辰男は、1888（明治21）年12月23日に広島県深津郡福山町（現、福山市）にて誕生する。父鸞蔵は福山藩の零落士族の次男であり、剣道師匠や銀行夜番で日銭を稼ぎ、母チカは内職しながら家計を助けた。貧困のうちに兄三人は夭折し、森戸は曾祖母・祖母・伯母・両親・姉三人の九人家族の中で「武士的精神」を唯一の誇りとしながら育てられた。女系家族の中で、力のない父への視線が逆に理想の父親像を求める心性を培い、のちに内村鑑三・高野岩三郎にそれが仮託されてゆくのである。地元の小学校卒業後、姉の奉公稼ぎにより福山中学（現、誠之館高校）を卒業、この間、三年時にキリスト教に入信し「人道的教養」を養う。森戸家再興をかけた跡取りとして親族の援助により東京に遊学、旧藩出身倉井家の書生をしながら受験勉強をし、その期待に応え1907年に第一高等学校に入学、同校文科甲類（英法）卒業、東京帝国大学法科大学経済学科に入学する。その後の森戸の経歴は【表1】の通りである<sup>(7)</sup>。

【表1】森戸辰男の経歴

1888（明治21）年	12月23日 広島県深津郡福山町（現、福山市）にて誕生。 久松小学校卒業、福山中学（現、誠之館高校）卒業、東京に遊学。
1907年	第一高等学校に入学、この間弁論部所属、同校文科甲類（英法）卒業 東京帝国大学法科大学経済学科入学。
1914（大正3）年	東京帝国大学法科大学経済学科卒業。経済統計研究室助手採用。
1916年	7月 同大学法科大学社会政策学科助教授昇官。
1919年	9月 同大学経済学部独立により助教授昇官。
1920年	1月 山川健次郎総長出席のもと教授会による休職処分。1月 第1回公判、 3月 森戸禁錮2ヶ月、10月 大審院による新聞紙法違反、禁錮3年の実刑判決で失官（森戸＝クロボトキン事件）。
1921年	2月 巢鴨刑務所に収監。のち大原社会問題研究所の専任所員。
1921年	5月 独・英・仏へ留学（～23年2月）
1924年	大阪労働学校講師。
1945（昭和20）年	11月 日本社会党結成に参加。
1946年	4月 社会党員として衆議院議員（広島3区）に当選。
1947年	6月 片山哲内閣で文部大臣就任。翌年10月芦田均内閣で解任。
1950年	4月 広島大学々長就任（58年3月）。日本学術会議会員日本ユネスコ国内委員会委員、大学設置審議会委員。
1953年	9月 中央教育審議会専門委員就任。

(7) 森戸辰男『思想の遍歴（上）- クロボトキン事件前後 -』（春秋社、1972年）。同『思想の遍歴（下）- 社会学者の使命と運命 -』（春秋社、1975年）。同「わが父母を語る 貧乏武士」（『月刊時評』1974年1月）。同『遍歴八十年』（日本経済新聞社、1976年、『日本経済新聞』に1976年2月1日から3月1日まで、30回にわたって連載された「私の履歴書」の合本）を参照のこと。

1959年	労働科学研究所理事長。
1963年	3月 中央教育審議会会長就任（～71年1月）
1964年	日本放送協会学園高校校長。10月 国語審議会会長。 11月 文化功労者。
1974年	11月 勲一等旭日大綬章。
1984年	5月28日 癌性腹膜炎のため死去（享年95歳）

## 2. 横浜市史編集室所蔵「森戸辰男」資料

つづいて、横浜市史編集室運搬時の「森戸辰男」資料について概観してみよう。横浜市史編集室所蔵「森戸辰男」資料は、既に述べたように横浜開港資料館の設立準備と昭和編の横浜市史の立ち上げ準備に、広く市民に資料の提供を呼びかけたところ森戸の甥である森本氏より当時、横浜開港資料館準備委員であった東海林静男氏（横浜市史編集委員・米沢女子短期大学）を窓口担当者として横浜市へ寄贈を受けたものである。この資料は当初60箱程度であり、まずは中区新港埠頭万国橋にある日通倉庫に長く保存されていた。1987年10月に2日間にわたり現在の横浜開港記念館地下倉庫に移され、翌年6月に第一次の開封・調査が三宅明正氏（横浜市史編集委員・千葉大学）を中心にして行われた。その時点で「森戸辰男」資料は原秩序を保ちつつも破損した箱からの資料取り出し、および無理な梱包から資料を保存する目的により大型段ボール箱 100箱に再び詰め替えられたのである<sup>(8)</sup>。

横浜市史編集室が「森戸辰男」資料を現在の編集室に運び込んだのは、1994年8月のことであった。編集室としては、この100箱を原秩序として整理を開始した。そこで、100箱の内訳は、大雑把に分類すると〔a〕書類・書簡etc.（27箱）、〔b〕刊本・雑誌・抜刷etc.（69箱）、〔c〕写真・スライドetc.（1箱）、〔d〕アルバム（2箱）、〔e〕掛軸・プレート（1箱）であることが確認された。しかし、これも森戸・森本両氏の手によりかなり資料が雑然と梱包され、第一次の開封時にも混乱を招来させており秩序とは名ばかりの状態であった。これらの資料が、袋詰め、紐結び、冊子（フラット・ファイル）、バラの状態で箱詰めされていた。この資料は、森戸自身の整理の跡がみうけられ、森戸の整理能力の面目躍如たるものをみせつけられるものだったが、何時の時点かに袋から出され空封筒になってしまったものや入れ違えたもの紐がほどかれた状態になってしまったものが多数みうけられたのである。またこのバラ資料や新聞紙が詰紙のように箱に放り込まれていたことも資料整理を一層困難にさせた。

### （a）書類・書簡資料

まず、横浜市史編集室蔵「森戸辰男」関係資料の〔a〕書類・書簡について述べてみると、大きく（1）教育学術関係、（2）社会労働問題関係、（3）原稿・書き付け・メモ、（4）手紙（書簡・はがき）類に大別できる。

さらに（1）教育学術関係は、中央教育審議会、大学運営協議会、国立大学事務局長会議、

(8) 黒頭中「資料紹介 - 森戸辰男文書 -」(横浜市史編集室『市史通信』第16号, 1988年9月)

広島大学，教育刷新委員会，国語審議会，能力開発研究所関係，日本学術会議，英語教育協議会関係，国際理解教育研究会，日本ユネスコ委員会関係，日本育英会，NHK放送文化研究所（放送協会学園），日米文化教育テレビ，児童絵画コンテスト，僻地教育，肢体不自由児教育，文部省（閣議関係資料），琉球政府，その他に分けられる。森戸は，戦後の六三制導入・運営時の文部大臣であるとともに，中央教育審議会第十九特別委員会（1965年1月11日）では，あまりにも有名な答申「期待される人間像（中間草案）」を会長として提出している。またこの臨時委員に大仏次郎（作家，本名・野尻清彦）や松下幸之助（松下電器会長）がいたことも話題となっていた。のその他のなかには，森戸が国側証人として陳述した関係で家永三郎氏の教科書裁判関係の「教科書裁判に関する森戸辰男証人陳述〔記録〕」（1968年1月20日）及び「昭和40年教科書裁判原告側資料」（1966年8月20日）・「昭和40年教科書裁判国側資料（答弁書）」（1966年11月10日）等の原本が残されており<sup>(9)</sup>，文部大臣時代の閣議関係資料を含めて重要な資料が発見される可能性が高い。

(2)社会労働問題関係では，大原社会問題研究所，労働科学研究所，大阪労働学校，日本社会党，日教組，さらには森戸事件そのものの資料も残されている。

日本社会党関係の資料では，戦後社会党路線問題の資料<sup>(10)</sup>が圧巻であり，拙稿「森戸辰男と『救国民主聯盟』」で紹介した「救国民主聯盟関係」資料や社会党内の左派右派路線論争としての「森戸＝稲村（順三）論争」に係わる資料が，中央のみならず地方支部からの書簡・はがきによって知ることができる。その他としては，1923年9月1日の関東大震災勃発のときに引き起こされた亀戸事件に係わる自由法曹団「亀戸事件聴取書」（1923年10月15～23日）<sup>(11)</sup>が残されており，このカーボン紙で書かれた聴取書が大原社会問題研究所以外では横浜市史編集室にも所蔵されていることを明らかにしておきたい。また1929年3月5日に右翼テロリストによってひきおこされた無産

---

(9) 教科書裁判に関しては，教科書検定訴訟を支援する歴史学関係者の会編『歴史の法廷 - 家永教科書裁判と歴史学 -』（大月書店，1997年）を参照のこと。

(10) 森戸は，社会党結党大会（1945年11月2日／日比谷公会堂）で中央執行委員・第二回大会（1946年9月28日～30日／中央大学講堂）で中央執行委員政調会長・第三回大会（1948年1月16日～19日／日本大学講堂）で中央執行委員を歴任した。片山哲は社会党内閣組閣に際して，「外務と大蔵を，社会党で是非とりたいのが私の願いであった。まず，変り種として外務を森戸君に，大蔵は適任の水谷（長三郎...引用者）君をと予定して詮衡を進めたが，芦田（均...引用者）君は，是非外務大臣を担当したいと言うし，水谷君は，商工大臣は自分に回してくれと言う。致し方がないので，振り当てをこの様に決めた」（片山哲『回顧と展望』福村出版，1967年，p.250～1）といている。荒敬氏は，この当時の森戸の立場を中間派としている（荒敬『日本占領史研究序説』柏書房，1994年，p.234）としている。

(11) これは，二村一夫氏によって「亀戸労働者刺殺事件聴取書」として紹介された資料である（二村一夫「亀戸事件小論」『法政大学大原社会問題研究所資料室報』第138号，1968年3月。のち『歴史評論』第281号，1973年10月に転載される）。

派系代議士・山本宣治の暗殺後の葬儀（同15日）における森戸の振舞，山本宣治氏遭難記念出版<sup>(12)</sup>が，山本の遺作「思想善導の実践とその暴露」と森戸の「思想善導の理論的暴露」の2論文によって編集された事実に我々はもっと目を向け，森戸を再評価すべきである。

（3）原稿・書き付け・メモには，森戸の様々な原稿のみならず高野岩三郎その他の原稿が散見される。また書き付け・メモ類は会議・講演会に係わるものから，些細な事を記したもののまで数千枚にわたり残されている。

横浜市史編集室所蔵の原稿中には何よりも森戸事件の直接の原因となった「クロボトキンの社会思想の研究」<sup>(13)</sup>の原稿の原本が確認される。この原稿自体が大きな歴史的な価値を持つものである。今回発見された原稿は，五の途中までではあるが，従来「二から九まではクロボトキンの思想内容を研究しており（その内三がない）」<sup>(14)</sup>といわれた同論文には，本来，61頁10行から三（章）になることや若干の訂正や削除があることが分かる。そこで，「クロボトキンの社会思想の研究」の原稿と活字論文との異同を【表2】によって示してみよう。

【表2】森戸辰男「クロボトキンの社会思想の研究」原稿と活字論文との異同

章	頁・行	原稿 活字論文
一 .	p.58 l.4・5	社会状態 社会制度
	p.58 l.6	妨害物 障害
	p.58 l.6	私の考ふる所によると 之を徹底的に考ふれば
	p.58 l.9	一年数回投票用紙に姓名を書くこと（挿入）を以て 一年数回投票用紙に姓名を書くこと - それすら許されて居ない人間が多数である - を以て
	p.58 l.11	名誉 光栄
	p.59 l.8～9	社会政策（挿入）の理想 社会政策乃至社会運動の理想
三 .		（『経済学研究』にはないが，p.60 l.10から始まる。）
	p.60 l.15	潤沢 豊饒
	p.61 l.9	傾向 趨向
	p.61 l.14	止めることを記憶して戴きたい。 止める積りである。
四 .	p.63 l.10	変移 遷移
	p.63 l.11	文明の中心点に堆積されて居る。 <del>（消去）</del> 実際吾々は富んで居る，吾々の考へるよりも遥かに余計に富んで居る。吾々が既に所持して居るものだけでも，吾々

(12) 山本宣治・森戸辰男『政府はいかに思想を善導せんとするか』（大阪労働学校出版部，1929年3月）。「故山本宣治氏遭難記念出版に関し」というガリ版の広告に書かれたメモによれば，この出版は当然に発禁処分を覚悟したものであった。

(13) 森戸辰男「クロボトキンの社会思想の研究」（『経済学研究』第1巻第1号，1920年1月）。

(14) 宮地正人「森戸辰男事件 - 学問の自由の初の試煉 - 」（『日本政治裁判史録 大正』第一法規出版，1969年，p.232）。さらに「森戸事件」をめぐる知識人の在方とその動向に迫った高橋彦博『森戸事件』前後 - 社会運動史における知的脈絡 - 」（法政大学社会学部『社会労働研究』第40巻第3・4号，1994年2月）も参照のこと。

	<p>は富んで居る。今日現に存在して居る機械的設備より生産し得る所のものを数へれば、吾々は尚更に富んで居る。吾々の土地や吾々の工場や吾々の科学や、吾々の技術上の知識が、唯万人の幸福を齎すために用いられた場合に、此等から吾々の獲得しうる所のものを想へば、吾々は此の上もなく最も富んで居る。文明の中心点に堆積されて居る。ところで此の巨大なる</p>
p.65 l.14	<p>労働し得る (挿入)に至っても 労働し得る年齢に至っても</p>
p.66 l.2	<p>子供 子孫</p>
p.66 l.13	<p>その窮乏を増すのである。(消去)かくて社会は二個の敵対視する陣営に分かれ、少数者の特権は確立し、民衆の自由は喪はれ、強制と除外法と軍律とが彼等を支配するようになる。而して此等の特権を支持せんがためには、裁判所、法官、刑罰執行官、警察官及監吏の夥しい同勢が必要であって此等の全勢はまた探偵、偽証、間諜脅迫及腐敗の全組織を発生せしめるのである。終わりに斯様に</p>
五 . p.68 l.4	<p>(消去)更に進んで</p>

(註) ページ数は、『経済学研究』による。

以上のように、森戸辰男「クロボトキンの社会思想の研究」の原稿原本は、想像以上にラジカルな内容であったことがわかるのだが、それを考慮し訂正・削除をへた同論文ですら大正デモクラシーの急進的展開に対する思想弾圧の前では、容認されるものとはならなかったのである。「国家の学」たる東京帝国大学法学部から「社会の学」を目指した経済学部が独立、その気概を込めて編集された『経済学研究』創刊号に掲載された森戸の論文が当局の忌諱にふれ、執筆者森戸辰男は編集発行人であった大内兵衛とともに東京地方裁判所に起訴され、『経済学研究』が創刊号で発刊停止に追い込まれた。1919(大正8)年12月に引き起こされたこの森戸(クロボトキン)事件は、1910(明治43)年の大逆(幸徳)事件と1928(昭和3)年の3・15事件との間に位置づけられ、日本における初の「学問の自由」の試煉となったものであった。「森戸辰男」の名は何よりもこの事件をもって近代史に登場し、我々に記憶されるのである。「クロボトキンの社会思想の研究」の原稿原本が現存し横浜市史編集室に所蔵されていることの意味は大きなものがある。

最後に(4)手紙(書簡・葉書)は、公事、私事に大別できるが、新聞論稿やラジオ放送へ反響が大きいことと、森戸の国際的な活躍から英文書簡がおびただしい数に上ることを記しておかなければならないであろう。手紙は、小型段ボールで8箱の分量があり、高野岩三郎・大内兵衛等の(東京大学 大原社会問題研究所)関係の人脈や矢内原忠雄への戦後民主選挙への出馬要請を示す手紙、さらには森戸の交友関係を示す多くの手紙が残されている。特に高野岩三郎宛の手紙が含まれていることより、森戸が高野の絶対の信頼により書簡類の対応に当たっていたことがわかる。また作家・井伏鱒二からの手紙には森戸自筆の「保存」の文字が記されている。手紙類はまだ整理がつかない段階であるので、膨大な書簡群のなかから拙稿「森戸辰男と『救国民主聯盟』」との関係から一通のみ紹介してみよう。

【資料1】奥本美恵夫より森戸辰男宛の書簡

（宛て名）「栃木県芳賀郡真岡町荒町 森戸辰男先生」

（差出人）「広島県豊田郡豊浜村斎島 奥本美恵夫」

（本文）拝啓 書面の礼を略し、其礼を敢て愚翰を拝呈し致します。嘗て - 六月十五日於大阪 - 不遜の仕様を顧 救国民主聯盟に政治政策研究機関の設置を希求致しました。社会党ケ<が>新しい日本の建設の為 政策の科学的原理としての救国民主聯盟に政治政策研究の設置は焦眉の急務と存じます。浅学非才な私ケ<が> 謂ふ迄もなく、農業政策と云い、失業対策と云い、文化工作と云い、戦后治安維持の緊急立法作用と云い、幾多の難問題が横積されて居ります。私が古<こ>ゝに謂ふ所の政治政策研究の機関は有識専門家より成ると古<こ>ろのものであつて、政府、聯盟議会部の指導難しきは因より联合国又は国際聯合との間に於ける問題も対象も之ケ<が> 処理、交渉の機関であらねばならぬと存ずる次第です。現下の最も大きな問題として、戦前の権利を永久に抛棄し軍備を永久に撤廃する事を宣言した。政府の憲法改正案は平和日本文化建設の為に躊躇しませんけれども武力による外国の攻撃に対して若し列国の安全保障ケ<が> 無いとすれば日本は自己の生存を維持する力の全くないものとならねばなりません。この点、联合国又は国際聯合との間に必要な交渉と諒解とが既に成り立つて居るかどうか掛<懸>念に耐へません。

先生、明日の日本と世界の進運<ママ>との為に厳正な科学に立脚するところの政治政策研究機関の設立を救国民主聯盟に設置あらん事を切にへ希求してやみません。

右愚見まで

先生の御健康と御奮斗をお祈致します

<昭和二十一年>六月二十二日

敬具

奥本 美恵夫

森戸 辰男先生 侍史

森戸は、1946年5月11日の社会党代議士会でまもなく成立する吉田茂内閣に対して社会党の主体性確立を訴え、総選挙前からの党の公約である民主戦線結成のためにも「救国民主戦線」を即時結成すべきであると提案した。代議士大会は森戸提案を採用し、具体的内容については共同闘争に関する特別委員会に委ねた。5月13日に開催されたこの委員会は、目指す民主戦線の名称を「救国民主聯盟特別委員会」と改称すること、この聯盟の当面の目標を食糧危機突破・民主勢力を基盤とする社会主義政権の確立におくこととし、「指導精神」その他の具体化を森戸辰男・鈴木茂三郎の二人に委任することになった。さらに15日に「大綱」が委員会で可決、翌日に発表されるに至った。森戸は、民主戦線の功労者としての印象を党内外に与え党内のイニシアチブを強固ならしめ、その人気を確実に獲得していったのである。このように森戸に対しては、社会党中央だけではなく、地方党員からも熱い期待が寄せられていたのである。森戸（クロボトキン）事件の受難当事者としての森戸は、社会党系のみならず広く民主主義陣営の「期待の星」であった。

その他として、(5) アルバム(写真)・録音テープについては、写真類は 私事、広島大学に大きく分類され、録音テープには多くの聴衆を魅了したNHK等のラジオ放送・講演会等のものが残されている。また、(6) 新聞切抜に関しては、大正期の森戸事件関係から戦後の教育問題ま



で膨大なスクラップと袋詰めの新聞切り抜きが残されている。森戸のその総数を確定できないほどの著作は、こういった資料の収集から生み出されているのである。

(b) 刊本・雑誌・抜刷類

横浜市史編集室で、まず整理に着手できたのは〔b〕刊本・雑誌・抜刷類であった。〔b〕の内訳として、刊本・雑誌は【表3】のように整理がされ、現在データ・ベース化されている。

【表3】森戸辰男旧蔵刊本・雑誌

新Box.No.	種別	内 容
Box. 1・2	刊本	河上肇著作集
Box. 3	刊本	岩波講座『現代』, 三谷隆正全集
Box. 4	刊本	世界文学大系
Box. 5	刊本	世界文学大系, 哲学・歴史・人間学
Box. 6	刊本	哲学・歴史・人間学
Box. 7 ~ 9	刊本	教育・大学関係
Box.10	刊本	イデオロギー・社会主義・国家・建国・ナショナリズム・戦争論
Box.11・12	刊本	政治・労働運動・法学・国際関係・平和他
Box.13~15	刊本	経済・経営・商業・外交史・明治・大正期の政治の本他
Box.16・17	刊本	趣味(三島由紀夫・大江健三郎他の小説)
Box.18	刊本	趣味(邦訳本・その他の小説・古い文庫他)
Box.19・20	刊本	趣味(遺稿集・歌詩集・釣り・語学他)
Box.21	刊本	天野貞祐著作集・評論・論評・随筆・文学史他
Box.22	刊本	評論・論評・随筆・文学史他
Box.23	刊本	神奈川県労働運動史(戦前)・戦後経営史・翻訳書他
Box.24	刊本	ガンジー関係他
Box.25	刊本	小冊子(福祉関係・健康・長寿)
Box.26・27	刊本	小冊子(福祉関係・健康・長寿)・洋書(英文)
Box.28	刊本	洋書(英文)
Box.29	刊本	洋書(独文・仏文その他)
Box.30~32	雑誌	世界
Box.33	雑誌	世界・我等
Box.34	雑誌	我等
Box.35	雑誌	我等・中央公論
Box.36~38	雑誌	中央公論
Box.39	雑誌	中央公論・文部時報
Box.40	雑誌	文部時報
Box.41	雑誌	労働科学研究
Box.42	雑誌	労働科学

Box.43	雑誌	労働の科学
Box.44	雑誌	前衛・新人
Box.45	雑誌	自由・厚生補導
Box.46	雑誌	改造・思想
Box.47	雑誌	社会思潮・社会思想研究・社会主義・泉の光
Box.48	雑誌	労働問題研究・民主社会主義・フォト・NHK放送文化
Box.49	雑誌	改革者・国民思潮・理想・真理・平和・批判・思潮・世紀他
Box.50	雑誌	アルフィール・パンフレット・大原社会問題研究所雑誌他
Box.51	雑誌	大正・昭和初期の雑誌
Box.52	雑誌	教育関係の雑誌
Box.53	雑誌	水之趣味他
Box.54	雑誌	デモクラシィ・世界週報・サーベイ他
Box.55	刊本	世界文学大系
Box.56	刊本	三谷隆正全集・岩波講座『現代』・その他歴史社会系
Box.57	刊本	経済・法律他
Box.58	刊本	植村正久関係・小泉信三関係・思想評論系
Box.59	刊本	論評・随筆他
Box.60	刊本	福沢諭吉・田口卯吉・幸徳秋水・横山源之助他
Box.61	刊本	中国詩人選集・歴史・文学他
Box.62	刊本	小説他
Box.63	刊本	洋酒マメ天国・芸術系・アートブック他
Box.64	刊本	趣味（釣り他）
Box.65	刊本	洋書（ミケランジェロ・コレクション）
Box.66	刊本	文部省関係（戦中・戦後の小冊子他）
Box.67	刊本	文部省関係（統計速報・要覧・教育委員会月報他）
Box.68	刊本	文部省関係（報告類・教育調査他）
Box.69	刊本	文部省関係（報告類・調査類・中教審類・ユネスコ課他）
Box.70	刊本	法務省（司法研究）・法制局（憲法関係）・衆議院調査課他
Box.71	刊本	教育関係・原爆傷害報告書・その他事業報告書
Box.72	刊本	教育関係（学校・大学発行物）・自治体関係機関・ケネディ他
Box.73	雑誌	森戸論文掲載雑誌・著作本
Box.74	雑誌	森戸論文掲載雑誌・著作本その他雑誌
Box.75	雑誌	森戸論文掲載雑誌・森戸講演の活字本他
Box.76	雑誌	I D E（森戸論文を含む教育選書・教育資料他）
Box.77～79	雑誌	その他雑誌

森戸の旧蔵書は上述したよう、広島大学に〔社会主義，社会問題関係〕，広島修道大学に〔経済学関係〕，日本女子大学に〔婦人問題関係〕，獨協大学に〔哲学関係〕がそれぞれ分割寄贈されているため，横浜市史編集室の所蔵のものは，まとまった形での刊本のコレクションでは遜色があるのは否めない。しかしながら和書・洋書にも稀覯本がみうけられるのである。筆者が興味をもっているのは，新Box.50のなかにある『虚無思想研究』・『原始』・『アイデア』・『黒煙』・『ブラックリスト』・『ナロオド』等の大正期，『黒色戦線』・『解放新聞』・『黒色青年』・『黒旗』・『無政府主義研究』・『観念工場』等の昭和初期の無政府主義系の雑誌である。これらは，国会図書館にも所蔵されていないものも多い。

この外に，小冊子・抜刷は森戸個人のもので8箱，森戸以外でも2箱にのぼる。これについては，和雑誌・欧文雑誌・和文欧文パンフレット森戸講演録・その他講演録を多数所蔵している労働科学研究所のコレクションと類似しているので，現在，横浜市史編集室では，広島大学と労働科学研究所の図書分類法【表4】に沿った形での整理を行っているところである。

【表4】森戸文庫の分類法

広島大学附属図書館	労働科学研究所
<p>A 和書</p> <p>0 総記</p> <p>1 社会主義</p> <p>2 社会主義運動</p> <p>3 無政府主義</p> <p>4 社会問題・社会政策</p> <p>5 経済学</p> <p>6 社会学</p> <p>7 政治・法律</p> <p>8 哲学</p> <p>9 その他</p> <p>教育 人文 自然科学</p>	<p>和書</p> <p>0 総記</p> <p>1 哲学・心理学・倫理学</p> <p>2 伝記・地理</p> <p>3 社会思想・社会主義</p> <p>4 政治・法律</p> <p>5 経済学</p> <p>6 社会問題・社会政策</p> <p>7 教育</p> <p>8 衛生，公衆衛生学・産業</p> <p>9 芸術・言語・文学</p>
<p>和文雑誌</p>	<p>和文雑誌</p> <p>パンフレット</p> <p>森戸先生講演録</p> <p>新聞切抜きファイル</p>
<p>B FOREIGN BOOKS</p> <p>0 General Works</p> <p>1 Socialism</p> <p>2 Socialist Movements</p> <p>3 Anarchism</p> <p>4 Social Problems &amp; Social Policies</p>	<p>洋書</p> <p>0 総記</p> <p>1 哲学・心理学・倫理学</p> <p>2 伝記・地理</p> <p>3 社会思想・社会主義</p> <p>4 政治・法律</p>

5 Economics	5 経済学
6 Sociology	6 社会問題・社会政策
7 Politics & Jurisprudens	7 教育
8 Philosophy	8 衛生, 公衆衛生学・産業
9 Miscellaneous	9 芸術・言語・文学
	欧文雑誌
C Pamphlets	パンフレット
1 Socialism	
2 Socialist Movements	
3 Anarchism	
4 Social Problems & Social Policies	
5 Economics	
6 Sociology	
7 Politics & Jurisprudens	
8 Philosophy	
9 Miscellaneous	
FOREIGN PERIODICALS	

今後の予定 むすびにかえて

最後に今後の予定を報告することで、本稿のむすびにかえよう。

現在、横浜市史編集室では、「森戸辰男文書（その1）」を収録する『横浜市史資料所在目録 - 近現代 - （第7集）』（担当：曾根妙子・田崎公司）を編集している。これは1998年3月刊行予定であるので、本稿が発表される頃には世に出されていることだろう。なお同時収録は、港湾建設事業の第一人者であった鮫島茂（1894～1980年）の関係資料、「鮫島茂文書（その3）」である。森戸辰男文書は今後もつづいて刊行される予定で、今回収録の『第7集』の内容としては、戦前期と特に1955年までの社会党関係資料であり、会計担当として戦中を支えた大原社会問題研究所関係の資料も含まれる。

また、大学・研究所を越えた森戸文書研究会が1997年夏に組織されている。同研究会は、「経済学者、労農運動、衆議院議員、教育刷新審議会委員、社会党员、文部大臣、広島大学学長、中央教育審議会委員・会長等、教育・労働問題に幅広く活動した故森戸辰男氏の所蔵資料の発掘・収集・整理・目録編纂・公開を通じて、近代日本研究の推進に寄与するとともに、これらの史資料を利用して研究を行う」<sup>(15)</sup>ことを設立趣旨にして、代表者を羽田貴史氏（広島大学）に、政治・経済・教育・文化のあらゆる側面から森戸資料に取り組んでいる。現在、横浜市史編集室からは前田一男氏（横浜市史編集委員・立教大学）と筆者が参加させていただいている。森戸文書研究会では、1998年度に、閣議関係・中央教育審議会・文部省関係資料の目録作成と整理、その間に大原社会問

(15) 羽田貴史「森戸文書研究会趣旨」1997年9月。

題研究所の本格的な調査を行う。つづいて、1999年度まで、社会党・労農運動資料、著名原稿の目録作成と整理。2000年度まで、書簡及びその他の目録作成と整理を計画し活動している。

この過程で、戦前・戦後を通じて日本の在り方に影響を与え続けた（戦前期の東京大学・大原社会科学研究所時代の活動、終戦直後における日本社会党の結成とその路線をめぐる論争、片山・芦田内閣のもとでの文部大臣、その後の広島大学学長・中央教育審議会会長として戦後教育政策に係わった第一人者）、森戸辰男という特異なキャラクターの本格的な検討が可能になると思われるのである。大原社会問題研究所の大きなご理解を得て、これらの課題に取り組んでゆきたい。

（たさき・きみつかさ 大阪商業大学商経学部助教授・横浜市史調査員）

●イギリス労働市場の基本構造の歴史的形  
**英国機械産業労使関係史(上)**

古賀比呂志著

職業保護政策の形成と一八五二年のモクアクト  
エレクトリア黄金時代において地域毎に慣行的に形成・確立された機械工によるクラフト規制のルールと労使関係の展開

A5判・340頁・(税別)15000円

●生活者の視点に立つ現代マルクス経済学批判  
**生活者の経済原論**

毛利明子著

現在進行しつつある経済システムのパラダイム転換を理論的に追究することで、生活者・市民の運動に展望を示す

A5変型・200頁・(税別)2500円

●ドイツ国状学派の歴史的な見直し  
**初期社会統計思想研究**

浦田昌計著

統計学が今なお社会観察という社会的実践であるという観点からアッペンワルらの国状学と近代統計学との切断に疑問をもち、ドイツ国状学派の思想と業績を再検討する

A5判・200頁・(税別)3600円

●新たな東アジア的規模での物流空間の生成  
**東アジア物流体制と日本経済**

津守貴之著

港湾機能の再配置と地方圏「国際化」  
東アジア経済圏の地域間関係の変化を空間的視点から交流機能に焦点をあて考察。港湾間競争・連携の構造と動態に迫る

A5判・200頁・(税別)20000円

●競争と協調のダイナミズム  
**産業と競争の経済分析**

武村昌介著

産業政策と通商政策の基礎理論  
戦時期から現代まで、産業政策と通商政策の競争的意義を理論と政策効果の両面から考察すると共に経済制度の視点にも切り込む。事例研究として半導体産業の分析を行なう

A5判・250頁・(税別)20000円

御茶の水書房

東京都文京区本郷5-30-20  
〒113 電話03(5684)0751/FAX03(5684)0753